

(別紙 10)

山形県におけるクマ類出没防止対策の実施に係る評価報告（出没防止対策事業）

1 事業実施地域周辺の現状の出没・被害状況、出没防止対策の実施状況及び課題等

クマの目撃件数は年々増加傾向にあり、平成 16 年～20 年の年平均件数は 76 件だったのに対し、令和元年～5 年の年平均は 535 件と、人身被害の恐れが年々高まっている。
県では、出没対策として緩衝帯の整備等と呼び掛けているが、地域住民や県・市町村職員に効果的な対策のノウハウがなく、対策が進んでいない。
また、より効果的な対策とするため、地域における出没対策の主体となる住民の関心を高めていく必要がある。

2 出没防止対策の具体的な内容

実施時期	令和 6 年度
場所	(1) 米沢市及び鶴岡市 (2) イオンモール山形南（山形県山形市若宮 3-7-8）
目的・目標	(1) 地域住民が主体となった総合的・継続的なクマの市街地出没対策に係る取組みについて、模範的な取組みとなるよう重点的に支援するとともに、モデルケースとして広く周知することにより、他地域へ波及させる。 (2) 複合商業施設において、狩猟の魅力・意義やクマと人の棲み分けの重要性を周知するイベントを開催し、狩猟免許取得者の増加やクマの市街地出没対策に関する県民の理解促進を図る
内容	(1) 集落点検、講義・ワークショップ、藪の刈払い、不要果樹の伐採に係る指導、事例集作成 (2) シンポジウム、狩猟道具・啓発パネル展示、ハンティングシミュレーション体験、ワークショップ教室、ジビエ販売、狩猟免許相談等
方法	(1) 専門家の派遣による指導等、SNS や県のホームページによる周知 (2) イベント開催
評価方法	(1) 専門家からの指導の参加者（約 35 名） (2) 来場者へのアンケート調査等、延べ 1,000 名以上来場
事業費とその算出方法	(1) 3,993,000 円 (2) 2,735,000 円
備考	(1) 特になし (2) 特になし

注 1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。出没防止対策が複数ある場合は、対策の種類毎に各項目を記載すること。

注 2：実施主体が市町村の場合、各市町村の実施する具体的な内容を記述すること。

3 実施した出没防止対策の評価（事業終了後の評価報告時のみ）

(1) モデルとして選定した地域においては、地域住民が、正しい知識のもと、住民主体の対策を進めていく重要性を認識した。また、事例集を広く周知することにより、他地域でも対策の参考とすることができるようになった。
--

(2) 当初の予定どおり事業が適切に実施された。

事業の実施箇所・回数について、県の中核地域で開催したものの、1回のみの実施となった。このため、会場から遠方の地域に在住する県民の来場が少なく、県民に広くクマ対策について周知するには至らなかった。

このことを踏まえ、普及啓発イベントについて、開催地域を分けながら複数回実施することで、県民に広くクマ対策等に対する理解促進を図る。

注1：当初予定されていたとおり事業が適切に実施されたか記載すること。

注2：事業実施地域ごとに、事業実施前後の被害指標（出没件数、被害件数、被害感等）を比較し、事業実施の効果が事業実施地域に現れているか評価すること（定量的な指標が難しければ、客観性を確保した定性的な指標を使用する。）。なお、事業効果の比較は同じ季節に行うことが望ましく、当該年度内での事業実施後の効果の確認が難しい場合は、次年度の実施とする旨記載すること。

注3：注1による効果検証を踏まえ、事業の設計（事業の質や内容）の妥当性や、事業の実施方法の適切性を評価し、課題と改善の方向性を記載すること。

4 その他

(1) 特になし

(2) 特になし

注1：出没防止対策の実施に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。